

# 『感しゃをわすれない』

愛知県常滑市

鬼崎剣道スポーツ少年団

小学3年生 飯 嶋 帆乃花

私は、剣道を習い始めてまだ半年ですが、私にとってはじめての世界は何もかも新せんで、今まで使ったことのない引き出しに、色々なことをたくさんつめこむことができます。

私は両親に、感しゃの心を大切にできるように育てられてきました。そして、いやなことやつらい時にはありがとう、よいことがあった時には感しゃしますと、思うようにしたり、毎日おかあさんとおはかまいりに行き、「おじいさん、おばあさんありがとう」と、言葉にします。

2011年3月11日に東日本大しんさいが起り、私はひさい地の老人ホームやじ童しせつにつれていってもらいました。はじめは、テレビで見る光けいとちがいが、あまりのひどさにおどろき声も出ず、ただただなみだがこぼれるだけでした。大切にしていた物、人を失いかなしんでいる人がたくさんいる中、剣道をやっていたお友だちに会うこともでき、道場やぼう具が波に流されてできない人がたくさんいることも教えてもらい、全てがそろっている私は本当に幸せだと体で感じました。

先生はし合の時、「かって反せい、負けて感しゃ」と、言います。ひさい地に足を運んだり、剣道の練習やし合を重ねることで、どんどんその言葉の深さが分かるようになりました。負けるということは相手がいるからこそ、一人ではできません。なぜ負けたのか教えてくれ、自分で気づくことができます。くやしい気持ちが心を成長させ、次のエネルギーになります。また、「礼に始まり礼に終わる」という言葉があるように、礼ぎとあいさつはとても大切です。道場に入るとき、練習を始める前に、みんなで一せいに正さをしている時のピーンとはりつめた空気が私は大好きです。勝った時には有ちよう天にならず、負けた時にもふてくされたりせず、勝敗がきまったからといって終わりではなく、さい後のあいさつで感しゃの気持ちを表します。このことはふだんの生活とも同じだよと教わりました。いい時ばかりがずっとつづくわけでもないし、反対に、悪いことばかりもずっと続くわけでもありません。いい時にいぼったりせず、また、悪いからといってひくつになるひつ要はありません。

私はしょう来、色々な国で人のために働きたい、人の役に立てる仕事をしたいと思っています。そのためには、正しい日本語や日本の文化、れきしなどをたくさん勉強するひつ要があります。せっか

く剣道に出会えたのだから、このスポーツのすばらしさを伝えられるようにど力します。

鬼崎剣道の先生は、みんなしせいがよく、強くてやさしくて堂々としていて本当のぶしみたいです。剣道が強いばかりでなく、心もきたえられているからです。坂本りょう馬やお田のぶ長、源頼朝、足利たかうじなど、れきし上人物にた人がいっぱいいるので、れきしの勉強も楽しくできます。

けいこが終わり道着をぬげば、お笑いげい人にへん身です。私が見ても友だちが多いんだろうなあ、み力的なんだなと分かります。そんな先生のそばにいれば私もそうなれると信じています。し合の時には、直前までアドバイスをしてくれ、終わった後も分かりやすくせつ明してくれます。負けてばかりの私ですが、笑って「次、次、次がんばろう、負けて感しゃ」と、言ってくれるので、いつもこころのなかで「悪いなあ先生ごめんね」と、つぶやいています。苦しい時やこまった時には、お兄さん、お姉さん、お友だちが助けてくれます。

これからも感しゃの心を忘れずに、まわりの人を大切に、私は私で、今できることを一生けん命が んばります。